



# LONGIN

*We create in Tokyo Japan since 2011*

WEB MAGAZINE Vol.

13

待望のポーチが登場!



ベストのフロントやサイド、バッグ等に付けられるターポリン製のポーチは小物などの収納にちょうど良いサイズ、実用性やデザインに優れた機能的なアイテムです。

LONGIN ポーチ S

サイズ: 縦 15 cm × 横 9.5 cm × 奥行 5.5 cm  
カラー: 全2色 (S1)ブラック、(S2)ホワイト  
価格: ¥3,200+税

キャップも好評発売中!



弊社ロゴをあしらったメッシュキャップも発売中!

オールシーズン活躍するメッシュタイプのキャップは、ズレ防止と汗対策にタオル等に使用されるバリエーションを内側テープ部分に装着。ダブルタイプなので風が吹いてもしっかりホールド。サイズはフリーなので自由に調整可能です。

LONGIN メッシュキャップ

サイズ: フリー カラー: 全2色  
価格: ¥3,200+税

NEW JINPEN

125mm 20g 3,200円+税

新発売! 105mm 15g 3,180円+税

匠の技、ここに極めり

シーバスから青物まで幅広い魚種をターゲットにしたジンは、後方固定重心による安定した飛行姿勢で、空気を切り裂くような圧倒的な飛距離を実現。浮き姿勢は垂直、ベンド(曲がり)の強い形状から生まれるバニクダートアクションは、入水後左右に大きくイレギュラーダートを繰り返し、逃げ惑うベイトを演出。水面直下でのボラツキの強いアピール力が、低活性時でも追いかけてバイトを誘発します。トップアイに搭載したカップにより、タイプの際にバニクダート時のベイトフィッシュが発する高音質ダイブ音とスプラッシュを両立する事を可能にし、深場まで広範囲にアピールします。

ジンはダイビングペンシルの為、ドックウォークさせるのではなく、軽くトウイチするだけで簡単にダイブ、水中でバニクダートアクション、トウイチを繰り返せば高音質ダイブ音、強くすればスプラッシュが多くなりアピール力もアップ。ダイブしたあとにリールリングすれば水面直下でのイレギュラーアクションを繰り返します。スプラッシュタイプと水面直下でのイレギュラーアクションの組み合わせのバランスを自由に变化させて、ショートピッチからのロングジークまで誘い方は自由自在です!



2014 新色6色が追加!(125 mmは全11色、105 mmは全6色のラインナップ)

かつてない波動が、全てを魅了する

PLEX

inking type jointed lipless for salt water

プレックス 85mm 10g 1,600円+税

2014  
NEW  
COLOR!



ハイプレッシャーなポイントでスレきったシーバスや、備食(ボラ稚魚やバチ、アミ、シラスなど)してルアーに見向きもしないシーバスなどに、威力を発揮。リングで連結されたボディが、水流の変化に反応して上下左右、捻りなど、自由自在に動くことで、激速なトリッキー波動を生み出します。ジョイントとは思えない、計算された飛行姿勢により抜群の飛距離を実現。普段使いのタックルでも、安心してファイト出来る太軸の#10 フックを装着した、今までに無かったジョイントタイプのジンキングリップレスの誕生です。



春のシーズンに湾奥でシーバスが捕食しているのはバチだけではない。バチパターンに依存せず釣果を上げるためには、バチ以外のベイトを意識した釣りが必要だ。

春の湾奥

マイクロベイト

パターン攻略!

Text by 三宅善洋

## バチがハマる日は実は少ない!

東京湾奥にて秋に並ぶシーバスフィッシングの好機である春ですが、思ったような好釣果を得られている人はそれほど多くはないのでは……?

強い南風である『春一番』が吹きだす3月の頭頃から梅雨入り前の5月いっぱいまでを、私は東京湾奥における『春シーズン』と位置づけています。その前半戦となる3～4月は特に春シーズンならではの傾向が強く、後半戦となるGWくらいになればだいぶ釣りやすくなりますが、良い時期もせいぜい1～2潮くらいのもので、決し



水面で目視しやすいマイクロベイトはハク（ボラの稚魚）を代表とする3cm前後の小魚。マッチザベイトに当てはまらないサイズのルアーでも、喰わせのパターンさえちゃんと掴めば捕食スイッチの入ったシーバスに口を使わせることが可能だ！

て安定して長く続くものではありません。

さて、春という時期において一般的に着目されがちなベイトといえは「バチ」ですが、実際に釣果を安定させていくにあたり重要なのは、「いかにしてバチパターン以外で釣果を得られるか」ということであると私は考えています。

特に早春は潮汐条件的にも、バチパターンにはめて手堅く釣りができるのはせいぜい1潮で2日程度しかありません。つまり1か月で4日間程度という限られた時間しかないため、このタイミングを逃した状態でそのままバチパターンの釣りをしてしまうのは結構厳しいものがあります。また、春は天候の荒れやすい時期でもあるので、せっかくの好機でも、荒天によって台無しになってしまうこともよくあります。

では、はっきりバチ抜けの確認できないタイミングにシーバスが何も食べていないかという、実際にはそんなことはなく、今回の議題となる各種稚魚やアミといった『マイクロベイト』を食べていることが多いのです。このマイクロベイトパターンの攻略こそが、たったの4日という短いチャンスを30日という長い期間に拡大するポイントだと考えています。

稚魚とアミでは異なるベイトパターンですが、共通する部分も多い

ので、今回の記事では『マイクロベイトパターン』と一括りにして、攻略における重要なエッセンスを紹介したいと思います。

## 4つの要素をカギに攻略する!

では春において釣果を安定させるコツとなる『マイクロベイトパターン』の攻略にあたって、重要なポイントとは何でしょうか？ 私は、大きく4点重要な要素があると考えています。1つ目は明暗部の質、2つ目は流速、3つ目は食わせやすいルアー選びとその使用法、4つ目は釣れる魚と釣れない魚の見極めです。

まずは1つ目の要素『明暗部の質』から説明します。春はもちろんデイゲームでも釣れますが、水温の低い時期は基本的にナイトゲームの方が釣りやすいので、夜間の釣行が多くなります。ほとんどのマイクロベイトは光に集まる習性がありますので、狙いどころとして手っ取り早いのは橋の常夜灯周りの明暗部です。問題は、その明暗がどのようなものであるか？ という話で、結論から言えば、なるべく明と暗のはっきりとしたメリハリのある明暗部が釣りを組み立てやすい場所と言えます。

例えば都内に架かる橋では、橋の内部がライトアップされているタイプの橋も多く存在します。そのタイプの場合、橋



取材当日は深い状況ながらもランガンし、キックベイト 55mmで狙い通りに魚をキャッチ。



湾奥に広がるポイントは無数にあるが、シーズンにあった釣り方がわからなければ釣果が出ないこともある。

の内部も明るく、常夜灯との境目がボンヤリしてしまうことで、シーバスの着く位置を特定しにくくなってしまいます。そのような橋でも地形次第では釣りは可能ですが、やはりしっかりと明るい側にベイトの群れが居て、暗い側にシーバスが待ち構えているという状態のほうが、正確に魚の位置関係を想定できるため釣りが組み立てやすくなります。

2つ目は水の流れる速さ、流速についてです。マイクロベイト達は遊泳力に優れた生物ではありませんので、早すぎる流れの中では明部に定位できなくなってしまいます。よって、マイクロベイトパターンの釣りでは『潮は止まっていないけれど流れ過ぎておらず、イメージ的にトロリと流れている程度の流速』が釣りやすい条件だと考えて良いでしょう。極端な話になりますが、この点が流れがあるほどに釣りやすくなる夏や秋との違いといえますね。

流れの速いポイントでも、瀬などの地形変化により一部流れが遮られていたり、明確なブレイクラインがあることによってシャロー側にベイトが留まる場所が出来ていればこのパターンは成立します。いずれにしても、明部にベイトが定位できることが必須条件です。

3つ目のルアー選びですが、基本的にはシルエットが小さくて動きのおとなしいルアーへの実績が高いですね。シーバス釣りに使うルアーでは、どんなに小型であってもマイクロベイトの大きさに合わせることは不可能ですが、シーバスの定位するピンスポットへ正確にアプローチすることによってバイトを引き出すことは可能なので、使用に問題ない範囲で小さな物を選べばいいでしょう。アクションについてはマイクロベイト自体の波動は小さいので、強く激しく水を動かすものよりも弱々しく泳ぐもののほうが反応を得やすいでしょう。

最後の4つ目となるのが釣れる魚と釣れない魚の見極めです。ルアー自体がどれほど魅力的な動きをするものであっても、本物のエサとは異なるものである以上、釣ることができる魚もいればそうでない魚もあります。狙いとなるのは『何かしら変化に着いて、ベイトの群れに狙いを定めている魚』です。

シーバスがマイクロベイトを捕食しているときは結構な確率でライズを確認することができます。ライズが明暗とブレイクのクロスする点やストラクチャー際の流れのヨレだったり、何かしら法則性のある場所であれば、そこを狙ってピンポイントでルアーをアプローチすることが攻略の近道となります。逆に、全く法則性も無く散発的に起こるライズやベイトに着いて動き回る魚は、ぱっと見は派手にベイト

を食いあげているようでも、実際には非常に釣りづらいことが多いです。ですから、水面に反応が見えたとしても、その魚がルアーで釣れる魚かそうでないかを早い段階で判断して、ダメそうであれば早々に見切って次のポイントへ移動すること



ブレックスは湾奥でとにかく釣れるルアーだが、三宅氏にしてみればどんなサイズの魚でも拾ってしまうのが欠点だと言う。

も重要です。言ってみれば「釣るために、あえて釣らない選択をする」というところでしょうか？

## ルアーの使い方は難しくない!

私がこの釣りで非常に実績の高いルアーは、プレックスとキックビート 55mm 12g。プレックスはジョイントならではの艶めかしい動きが春ならではのバチやシラスやアミ……といった波動の弱いベイトにマッチしているのか、比較的バイトレンジの浅い場面であれば早いタイミングで反応を得ることができ、サーチベイトとして活躍してくれます。

使い方は、定番となる橋周りの常夜灯にて魚の着くピンポイントに対して流し込んでいくだけ。ジョイントのルアーということもあって、一見するとどう使うのかイメージしにくいかもしれませんが、余計な

ことは考えないで、通常のシンキングペンシルのドリフトメソッドと全く同じ使い方をすれば大丈夫です。1点注意すべきは、レンジが浅いといっても水面直下を泳ぐルアーではありませんので、バチを捕食してボイルが散发している場合であれば専用のルアーを使った方が良いでしょう。あくまでも何を食べているか分かりづらいときにこそ威力を発揮するルアーだということを理解して投げましょう。

キックビート 55mm 12g は、魚のバイトレンジが比較的深めで中層以下のときに使用し



キックビートは様々な状況で応用の利きやすいバイブレーションなので、使い方をしっかり覚えて欲しい。

ます。キックビートシリーズは強波動がウリになるバイブレーションですが、ウエイトやアイのセッティング上、水を受け流すことに非常に長けたルアーなので、スローに引いたときには絶妙な食わせの波動を演出してくれます。ルアーカテゴリーとしては当然バイブレーションなのですが、イメージとしては流れに乗せて送り込むシンキングペンシルのような感じで使うとよいでしょう。

ただし、シンキングペンシルと比較すると高比重で沈下速度の速いルアーなので、着水してから流れを噛むまではわりと早いスピードでフォールしながら流されていき、ある一定のレンジまで到達してからはゆっくり浮き上がってくる、という立体的な軌道を描くということを念頭に使って下さい。また、同じルアーでも流れの速さやルアーの角度によって全く異なるレンジを泳ぐので、しっかり使い込んだ上で「このくらいの流れであればこのくらいのレンジを……」と頭の中でイメージすることが重要です。

両者のルアーに共通するのは『スローなドリフト』を意識するという点です。あくまでもベイト自体が遊泳力に優れているわけではないので、アップ〜クロスストリームの状態でピンポイントに対して流し込むようルアーを操作することが重要です。イメージとしてはルアーが必ず横を向いた状態で側面に水を当てつつ、ポイントに流し込むような感じでしょうか。シーバスがマイクロベイトを意識している場合は、ダウンから流れに逆らって泳ぐルアーに対しては非常に反応が悪いので、そのあたりにも注意したいですね。

春のシーズンはもちろんこれだけで攻略できてしまうほど簡単ではないと思いますが、そんな気難しい時期だからこそ、春の湾奥には釣り本来の『考える面白さ』が存在しているのではないのでしょうか。



### 三宅善洋 (みやけ・よしひろ)

LONGIN.フィールドスタッフ。東京湾奥エリアをホームとするアングラー。幼少より過ごした宮崎県での釣り経験をもとに、独自のロジックに基づいた都市型フィールドでのテクニカルゲームを得意とする。

LONGIN. が贈るフリーペーパー

# ロンジンマガジン Vol.3

弊社製品取扱店にて絶賛配布中です!



好評頂いている弊社のフリーペーパー『ロンジンマガジン』第3号がよいよ配布中!

今号はさらに増ページをしたレビン総力特集号。レビン開発秘話から使い方まで、弊社ルアーデザイナーである伊藤が解説しております。

ほかには弊社フィールドスタッフによるシチュエーション別の狙い方やカラーについての話なども収録しているので、シーバスの攻略ガイド本としても保存していただきたい内容になっています。

もちろんロンジン全製品のカタログも掲載。伊藤も愛読書としているロンマガ3号、無料配布本なのでぜひ店頭にてお手に取ってお持ち帰り下さい!

## ロンジンマガジン Vol.3

配布価格：¥0 (フリーペーパー)

版型：A5 版 36 ページオールカラー

発行：株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中  
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



**LONGIN**

INCORPORATED IN TOKYO JAPAN SINCE 2011

# WEB MAGAZINE Vol.13

発行日：2014年4月26日

株式会社 LONGIN.